



リンゴおいしいね

すくすく子育て広場・10/13

No.5

高野子育て支援センターは、月に一度、市の保健師と一緒に「すくすく子育て広場」で相談・交流などを行っています。

この日は、高野町中門田の「大坂りんご園」で、高野地域から3組6人、口和地域から2組4人、合わせて10人の親子が参加し、リンゴ狩りを楽しみました。

子どもたちは、ほかほかと暖かい日差しの下、リンゴ園に敷かれたござに座り、とれたてのリンゴや出来たてのリンゴジュースをおいしそうに口にしていました。母親たちも、日々成長する子どもの話題で会話が弾んでいました。



▲リンゴを食べながら交流する親子

らくらく運転でお買い物

電動アシスト自転車貸し出し事業開始式・9/29

No.7

東城まちなか駐車場で「電動アシスト自転車貸し出し事業開始式」が開催されました。この事業は、東城町商工会が65歳以上の高齢者へ電動アシスト自転車を貸し出し、買い物時の移動手段の提供や健康増進などを目的に実施されています。

また、同商工会が運営する「ほろかカード」の利用履歴と自転車に搭載されているGPS機能を利用して買い物行動を調査し、利用店舗の増減や利用エリアの変化などが分析されます。

同商工会の後藤茂行会長は「電動アシスト自転車を活用してもらい、地域の活性化へつながる分析結果が出ることを期待している。引き続き、地域が元気であり続ける街づくりに貢献していきたい」と話しました。



▲電動アシスト自転車の講習の様子

秋冬の花に模様替え

下領家自治会 花の植え替え・10/4

No.4

市役所総領支所の玄関前芝生スペースで、下領家自治会女性部の16人が花の植え替え作業を行いました。今回は8月号でお知らせした「総領花いっぱい運動」の一環で植えた花を、秋冬の花に植え替えていきました。

前回同様、国営備北丘陵公園の齊木義伸さん指導のもと、見栄えが良く、年間を通して花がみられるように、コスモス、シクラメンなどを丁寧に植えました。

参加者は「夏の花を一部残しながら、秋冬の花に入れ替えるのが難しかった。今まで知らなかった植え方を学べたので、良い体験になった。早速、自宅でも植え替えをしてみたい」と話しました。



▲植え替え作業の様子

高校生の力で地域を活性化

西城地域貢献活動講座

No.6

西城紫水高校は、高校生の力を西城町の活性化へ役立てるとともに、生徒の社会性の育成や進路選択のきっかけにすることなどを目的に、「西城地域貢献活動講座」を実施し、町内の施設・企業に生徒を派遣しています。

科目選択者21人は、9月から来年2月まで毎週木曜日の実習を行った後、学習成果をまとめ、校内の学習成果発表会で発表します。

派遣先の1つである庄原市立図書館・西城分館では、2年生の松本楓さんが本棚の整理や季節ごとのコーナーの新設などの実習を行っています。

松本さんは「本が好きで図書館を選びました。この実習を進路選択につなげていきたいです」と話し、魅力のある図書館づくりに貢献しています。



▲新しいコーナーを準備する松本さん

庄原グルメでカーブにエール！

カーブ庄原デー・10/10

No.1

庄原市カーブ応援隊はMazda Zoom-Zoom スタジアム広島で行われた東京ヤクルトスワローズ戦で、「庄原デー」を開催し、特産品などの販売や市のPRを行いました。

市内から参加した5つの店舗は、球場のコンコース（外周の通路）沿いに販売ブースを設置して、比婆牛のローストビーフや総領こんにゃく、アップルパイ、庄原焼きなどを販売しました。

また、バックスクリーンに市内の観光スポットの映像が映し出されたほか、来場者に抽選で比婆牛をプレゼントしました。

来場者は「高級な比婆牛を食べることができてうれしい」「温かくておいしいメニューがたくさんあって、体も心も満たされた」と喜んでいました。



▲特産品販売ブースに並ぶ観客



▲バックスクリーンに映し出される雄橋

火の用心！

防火パレード・10/2

No.3

比和保育所の園児17人が参加し、比和幼年消防きららクラブの防火パレードが行われ、比和町内を歩きながら火災予防を呼びかけました。

防火法被を身に着けた園児は、保育所から市役所比和支所まで約1.5キロの道のりを、拍手を打ち鳴らしながら行進しました。途中の比和ふれあいセンターと、比和支所の2カ所では、防火の誓いを宣言したり、歌や踊りなどを披露したりと、園児の元気な声が町内に響きました。

「火の用心！」と一生懸命呼びかける園児の姿に、沿道に駆け付けた保護者や近隣に住む人々も、拍手や声援を送りつつ、火災予防の大切さを改めて感じている様子でした。



▲防火を呼びかける園児

交通事故ゼロを目指し

交通安全テント村・9/30

No.2

口和町交通安全対策協議会の主催で「交通安全テント村」が口和町永田地域で開催されました。このイベントは秋の全国交通安全運動の一環行事として、交通安全思想の普及、浸透を図り、交通事故防止の徹底を目的に毎年実施されています。当日は同協議会員がドライバーに対し、反射材やエコバック、パンフレットなどを配布し、交通安全の啓発活動を行いました。

庄原警察署の田原実男交通総務係長は「日暮れが早まるこの時季は、午後4時を目安にドライバーはライトをつけ、歩行者は反射材を活用し、自分を目立たせる工夫をしましょう」と呼びかけました。

ドライバーは「初心に戻って安全確認を確実にしたい」と話しました。



▲協議会員による啓発活動の様子